

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手であると同時にグローバル社会にも対応できる人材を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。 1. 基本的生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。 2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力を身につけた生徒を育成する。 3. 教職員の資質向上を図るとともに生徒のモチベーションを高め、ものづくり教育を推進する。 4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった、社会ひいては世界に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな人間性の育成・社会性の醸成 (1) 人権感覚豊かな心の育成及び社会の秩序・ルールを確実に守る規範意識の醸成 ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。 イ いじめの予防に重点を置き、安心安全な学校づくりに努めるため、学期ごとに生徒に対しアンケートを実施する。 ※遅刻数について 500 回を下回ることを目標として努力する。(R4 566、R5 424 R6 442) (2) 美化・清掃活動の強化による規範意識の醸成 ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。 ※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度 (R4 75.4%、R5 75.2%、R6 80.6%) は75%以上を維持できるよう努める。 (3) グローバル人材の育成 ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を育成する。 ※海外の複数の高校との交流を推進する。 ※ユネスコスクールキャンディデート校として、ESD および SDGs を意識した教育活動の取組みを推進し、ユネスコスクールの正式加盟をめざす。
2 確かな学力への取組みと進路保障 (1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。 ア 英語・数学等の授業において、少人数授業を実施し、基礎学力の充実を図る。 イ 再編整備計画(工科改編)に基づいて、「PBL 学習」を推進する。その際には ESD および SDGs の趣旨を意識したものとし、「キャリアガイダンス」「総合的な探究の時間」や「課題研究」での全校的な取組みを計画的に進める。 ウ 生徒の自己肯定感や自己有用感の向上と「主体的・対話的で深い学び」のために、実社会において有用な資格の取得を奨励する。 エ 新型コロナウイルス感染症に係る対応として、ICT を活用した学びの校内体制整備を継続して推進する。 オ グローバル化や情報化が加速度的に進展する社会で、必要となる語学力(英語)の育成に努める。 ※生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する肯定率 (R4 80%、R5 81.6%、R6 86.6%) は80%以上を維持できるよう努める。 ※資格試験の合格率 (R4 67%、R5 57.1%、R6 70.8%) 65%以上をめざす。 ※TOEIC Bridge にチャレンジする生徒数 10 人以上をめざす。(R6 24 人) (2) 同僚性を高め、積極的に資質向上に取り組む。 ア 授業アンケート及び相互の授業見学を通して、授業力の向上をめざす。 イ 各系や教科を中心に経験年数の少ない教員等の学習会や技術力向上等の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。 ウ 英語および数学、実習での少人数展開授業を実施し、生徒の学力定着を保障していく。 エ 会議等のあり方を検討するとともに、全校一斉退庁日やノークラブデー(部活動休養日)を明確にし、日々の定時退庁に努めるなど働き方改革を推進する。 ※生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく楽しい」肯定率 (R4 79.5%、R5 84.4%、R6 87.1%) は80%以上を維持するように努める。 ※教職員向け学校教育自己診断における「教育活動全般にわたる評価と改善」肯定率 (R4 76.1%、R5 75.6%、R6 80.6%) は70%以上を維持するよう努める。 (3) 生徒の自己実現への支援 ア 人権教育・教育相談体制の充実並びに支援教育コーディネーター等による要配慮生徒へのサポート体制の充実 イ 3年間を見通した進路指導の充実 ウ 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底を図り、食物アレルギー等に係る事故防止や熱中症、新型コロナ等の感染症、食中毒の予防に努める。 ※入学時には中学校訪問等で生徒情報の把握に努め、SC や校長マネジメント費を活用した SSW とも連携し要配慮生徒へのサポートを行う。 ※生徒向け学校教育自己診断の「進路指導関連」項目の肯定率 (R4 90.6%、R5 90.2%、R6 94.2%) は90%以上を維持できるよう努める。 ※3年間を見通した進路・キャリア指導の充実を図り、就職一次内定率(R4 91.4% R5 89.5%、R6 94.2%)は85%以上を、年度末内定率については100%を維持できるよう努める(R4 100%、R5 100%、R6 100%)。
3 ものづくり・地域連携等を通したキャリア教育の充実と開かれた学校づくりを進める (1) 地域産業連携重点型校として、ものづくりを通して地域貢献と保護者との連携により地域に根ざした学校づくりを推進する。 ア 生徒による校内企業「城工房」や「キャリアガイダンス」「総合的な探究」「課題研究」における企業連携等により、地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進する事で地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。 イ 保護者と学校が一体となった学校づくりを行う。 ウ 小中学校や行政機関・大学と連携した小中学生対象の「ものづくり教室」や「出前授業」等を行い生徒の外部交流への参加や発表の機会を増大する。 ※地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城工メッセ」(地元企業紹介イベント等)の充実・発展を図る。 ※保護者のものづくり教育への理解を深めるために、PTA と連携した事業に取り組む。 ※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数 (R4 38 回、R5 38 回、R6 48 回) は30 回以上を維持できるよう努める。 (2) 学校の教育活動内容等をタイムリーに府民へ情報発信し、学校 PR に努める。 ※保護者向け学校教育自己診断「家庭と学校の連携や教育情報の提供」肯定率85%以上をめざす。(R4 82.9%、R5 83.5%、R6 83.3%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

